



PART 1

死刑の決断、逆恨み、暴行、脅迫、買収、ストレス疾患、守秘義務の重圧…

直前検証

裁判員候補を襲う「身の危険」と「人生リスク」



裁判員丸が動き出すぞー!! 帆を上げ今か今かと出航の時を待っている。しかーし! 船底を見れば、そこはお粗末な穴だらけ。司法の国民参加をうたい、オレたちを苦しみの極致におとしいれる悪法とともに、沈没するなんて御免だぜ!!

死刑の決断が及ぼす重度のストレス疾患

5月21日から国民の新たな義務「裁判員制度」が始まろうとしている。

選挙権を持つ人から無作為に候補者が登録され、昨年の11月末から12月にかけて、およそ29万5千人に最初の通知が送られた。その中からさらに事件ごとに裁判員候補が選ばれ、審査によって裁判当日に裁判員が（通常は）6人決められる。そして、3人の裁判官とともに刑事裁判に参加し、被告人が有罪かどうか、有罪ならばどんな刑にするかを多数決で決めるというワケ。これは避けることのできない国民の義務なのだ。しかし、憲法の規定する国民の義務は「教育」「勤労」「納税」の3つだけのはず…。

憲法違反ではないかという指摘もあるこの制度には、オレたちの知らない「身の危険」と「人生のリスク」が隠されている…。

まず、第一の懸念。それは裁判員裁判が、殺人、強盗致死、傷害致死など重大犯罪に限られていることである。

ということ、法律に関してはまったくの素人が重罪裁判に参加して、死刑や無期懲役に関わる刑の判断をしな



日本の司法を支配する最高裁判所。司法制度の改革よりも、まずはこの改革が先のような…

きゃならないってことなのか!?

『それでも裁判員、やりますか?』（集英社）の著者で、元裁判官でもある弁護士・井上薫氏に聞いた。

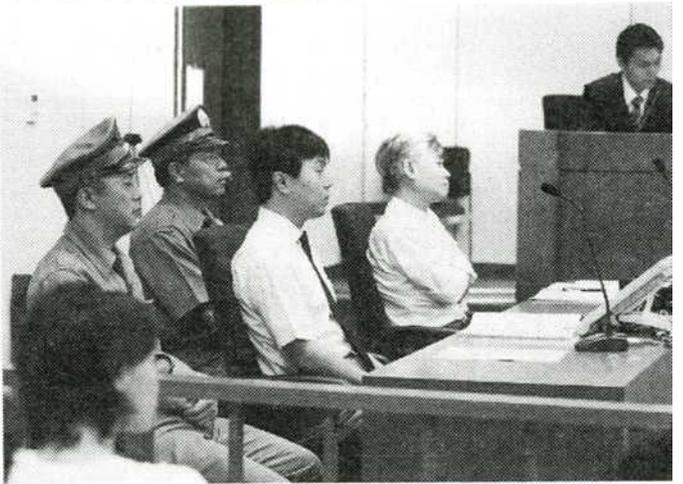
「そうなりますね。そもそも懲役1年の判決を下すことだって大変なことなんです。被告人を刑務所に入れ、人生を一変させてしまうわけです。ですから死刑判決に関わるなんてことは、これまでの人生で経験したことのないプレッシャーになるのは当然でしょう。自分の意思で人を殺すことになるわけですからね。それに殺人事件の裁判であれば、遺体の写真、現場が血の海になっている写真など、時に残酷な証拠写真も見なければなりません」

できればそんなものは見たくないんですが…と、拒否することも裁判員には許されないらしい。

『裁判員制度はいらない』（講談社）の著者、弁護士の高山俊吉氏も次のよ

*事件ごとに裁判員候補者名簿から裁判員候補者がくじで選ばれる。選ばれた裁判員候補者に質問票を同封した選任手続期日のお知らせ(呼出状)が届く。裁判の日数が3日以内の事件の場合、1事件あたり50人程度の裁判員候補者に呼出状が届く。裁判員候補者のうち、辞退を希望しなかったり、辞退が認められなかった人は、選任手続の当日、裁判所へ向かう。裁判長は候補者に対し、不公平な裁判をするおそれの有無などについて質問をする。最終的に事件ごとに裁判員6人が選ばれる(必要に応じて補充裁判員も選任される)。通常であれば午前中に選任手続を終了し、午後から審理が始まる

東京地裁で行われた模範裁判の様子。弁護士役(右)と、ネクタイを着けて座る被告人役(左)



と思います」。

一生のトラウマになるってことか。最高裁はご丁寧(ていねい)に24時間対応の相談窓口を用意しているらしいが、そんな事態が起こることは織り込み済みってことなのか？ しかし、この制度が押しつけるのは精神的な苦痛にとどまらないのだ。

被告人に不利な裁判が生む 逆恨み、暴行、暴言…

裁判員の身の危険として考えられるのが、被告人からの逆恨みや暴行。そもそも裁判員制度は被告側にとって不利な面しかないという。

「世論は一般的に凶悪犯罪に対して厳罰化を望む傾向にありますから、裁判員の量刑に対する意見はより厳しくなることが予想されます。裁判員裁判が対象とする事件は、被告人が『職業裁判官に裁いてももらいたい』と言っても聞き入れてもらえない。しかも国民から選ばれた裁判員は感情的な判決を求めかねない。そうなる与被告人は集団リンチに遭っているようなものです」

(前出・井上氏)

「(前述の)江東区の事件はプロの裁判官でも公判に7日間費やしました。裁判員裁判は3〜5日という超短期の非常に無理な裁判を行います。被告人にとつて納得いかないことはあってもプラスなことは何もない」(前出・高山氏)

「裁判員は当然そういった証拠から目を背けることができません。しかも裁判員裁判の7割は3日という超短期で審理を終えるとされているため、どうしても視覚や感情に訴える劇場型の裁判になる。モデルケースといわれた江東区バラバラ殺害事件の裁判では、肉片や骨片をスライドショーで見せ、被害者のご遺族が耐えきれず退廷したことで、絶叫と号泣の法廷といわれました。それを検察は『裁判員制度はこうなるのだという国民に向けたメッセージ』と言った。最も懸念されるのは、ストレス性外傷によるさまざまな症候群、いわゆるPTSDです。これまで経験したことの無い凄絶な場面を体験するわけですから、それが残す心の傷は一般の方にはとても耐えられない

絶対匿名ドキュメント

週プレ巨乳担当の苦悩

「自分で言うのもナンですが、さすがにボクはヤバいんじゃない？」

「俺に人を裁けるかな…」不安げに呟くひとりの男。なんと今回、裁判員候補に選ばれてしまった本誌巨乳担当のAだ。そんなAの元へ裁判員候補者の書類が届いたのは昨年11月のこと。「実は…6年分くらい税金未納で差し押さえられた過去があつて。封筒には大きく『最高裁判所』って書いてあるし。今度なんだ？ とヒヤヒヤしました」

「それはドキドキするわ…。実際選ばれた感想は？」

「どれくらいの確率で選ばれたんだらうって。それを考えたらラッキーな感じがしたよ。それに日当が1万円くらい出るんでしょ？ だったらいいかなー、と」

「でも、やっぱりいろいろ不安だよ。死刑判決とかした日には、生き心地がしないだろうなあ」

「判決でどんな気持ちになるかはわからないが、今後実際に選ばれたらありうる。『実はシミュレーションはしてみたんだよ。ヤクザがらみの裁判で逆恨みされたらどうしようとかね。極悪な犯罪をした人を世に出しちゃいけないと思うけど、

裁判員候補者に届く書類。仕事上の都合に関する調査票などが同封

死刑判決を下すなんて俺には無理だよ」

被告人や被害者が巨乳でカワイコちゃんだったら？ 「そりゃもちろん、俺好みの巨乳ちゃんだったら、まずはグラビアに出してからじゃないかと思う。ホントもつたないでしょ！」

それは裁判とは関係ないような…。とはいえ、好みや感情で量刑が左右されるのは避けられないことかも。Aの苦悩は今日も続く。

「俺に人を裁けるかな…」不安げに呟くひとりの男。なんと今回、裁判員候補に選ばれてしまった本誌巨乳担当のAだ。そんなAの元へ裁判員候補者の書類が届いたのは昨年11月のこと。「実は…6年分くらい税金未納で差し押さえられた過去があつて。封筒には大きく『最高裁判所』って書いてあるし。今度なんだ？ とヒヤヒヤしました」

「それはドキドキするわ…。実際選ばれた感想は？」

「どれくらいの確率で選ばれたんだらうって。それを考えたらラッキーな感じがしたよ。それに日当が1万円くらい出るんでしょ？ だったらいいかなー、と」

「でも、やっぱりいろいろ不安だよ。死刑判決とかした日には、生き心地がしないだろうなあ」

「判決でどんな気持ちになるかはわからないが、今後実際に選ばれたらありうる。『実はシミュレーションはしてみたんだよ。ヤクザがらみの裁判で逆恨みされたらどうしようとかね。極悪な犯罪をした人を世に出しちゃいけないと思うけど、

「俺に人を裁けるかな…」不安げに呟くひとりの男。なんと今回、裁判員候補に選ばれてしまった本誌巨乳担当のAだ。そんなAの元へ裁判員候補者の書類が届いたのは昨年11月のこと。「実は…6年分くらい税金未納で差し押さえられた過去があつて。封筒には大きく『最高裁判所』って書いてあるし。今度なんだ？ とヒヤヒヤしました」

「それはドキドキするわ…。実際選ばれた感想は？」

「どれくらいの確率で選ばれたんだらうって。それを考えたらラッキーな感じがしたよ。それに日当が1万円くらい出るんでしょ？ だったらいいかなー、と」

「でも、やっぱりいろいろ不安だよ。死刑判決とかした日には、生き心地がしないだろうなあ」

「判決でどんな気持ちになるかはわからないが、今後実際に選ばれたらありうる。『実はシミュレーションはしてみたんだよ。ヤクザがらみの裁判で逆恨みされたらどうしようとかね。極悪な犯罪をした人を世に出しちゃいけないと思うけど、

